

## 第2回小樽市総合計画審議会 議事概要

開催日時：令和5年11月21日（火）10時～12時10分

開催場所：小樽市役所 消防庁舎6階 講堂

出席委員：穴沢眞委員（会長）、荒木慶子委員、岡部唯彦委員、菊池博幸委員、島口郁世委員、  
下谷栄治委員、杉山奈穂子委員、高垣直美委員、高橋龍委員、登立敏和委員、  
堀口雅行委員、前田清貴委員、松岩一輝委員、松原三智子委員、横尾英司委員、  
林松国委員、脇本麻友美委員

市側出席者：総務部長、総務部企画政策室長、総務部企画政策室主幹

事務局：総務部企画政策室

（注）発言にかかる委員の個人名は表記していません。

### 1 第7次小樽市総合計画基本構想（改訂原案）について

#### （1）各分科会の報告について

##### ○会長

皆さんおはようございます。それでは、議事の方を進めさせていただきます。どうぞよろしくお願  
いいたします。それではまず、次第の1になりますが、第7次小樽市総合計画基本構想（改訂原案）  
の（1）の各分科会の報告についてでございます。当審議会では三つの分科会を設置し、それぞれの  
所管分野につきまして御審議いただいたところでございます。その結果について、各分科会の報告書  
をいただいておりますので、報告書の内容につきまして、事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

##### ○事務局（企画政策室主査）

（資料1を使って事務局より説明）

##### ○会長

ありがとうございました。分科会長様をはじめとして、分科会に御参加いただきました皆様に厚く  
お礼申し上げたいと思います。それではただいま事務局からの説明に対しまして、御意見・御質問等  
ございましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。それでは続きまして、次第の（2）  
になります。答申案について、ですけれども、こちらにつきましても事務局から説明をお願いしたい  
と思います。

#### （2）答申（案）について

##### ○事務局（企画政策室主査）

（資料2を使って事務局より説明）

##### ○会長

ありがとうございました。それでは、ただいまの事務局の説明につきまして、御意見・御質問などありましたらお願いしたいと思います。よろしいでしょうか。それでは、答申案につきましては、こちらで確定をしたいと思えます。御協力ありがとうございました。この後の市長への答申につきましては、事務局において答申書をまとめていただいた上で、後日私が代表いたしまして提出させていただきたいと思っております。それでは次第の1につきましては、以上とさせていただきます。それでは、続きまして、次第の2になります。外部意見確認の実施方法について、ということになります。それでは事務局の方から説明をお願いしたいと思います。

## 2 外部意見確認の実施方法について

### ○事務局（企画政策室主幹）

（資料3-1、3-2を使って以下を説明

- ・事前意向調査の結果
- ・具体的な対象者候補（学生ベンチャー）
- ・市で予定している子育てアンケート）

### ○会長

ありがとうございました。外部意見確認の実施方法をどのように行うかという点について、まずはその目的は何かということになるかと思えます。何のためにやるのか、と。それに伴いまして、ほぼ自動的にやり方が決まってくるのかなと思えます。皆様方から御意見をいただきました、審議会の意見聴取、もしくはアンケート、この二つの方法になりますけれども、まずは何のためにこれをやるのか、と。実施の目的がはっきりいたしますと、それに伴って、意見聴取がベターなのか、アンケートがベターなのかということがわかってくると思えます。まず具体的な意見の聞き方ということになりますと、その意見を答申の方に盛り込んでいただいたり、答申の意見を考える際のヒントという形で使うという、そういった形のことを思っております。また、特定の層に広く現状の課題について把握したいといった場合にはアンケートという形で出すのがいいかと思えます。意見聴取の場合ですと、特定の分野について深く意見を求めることができるという、そういったメリットはあるかと思えます。また、アンケートでは出てこないような内容が、そういった意見聴取の場合にはあるというふうに思えます。また一方で、アンケートを行った場合、これはかなり多くの方々から意見をいただけるというそういったメリットがございますし、ある程度その数値化できますので、客観的な指標という形でお示しすることはしやすいという、そういったメリットもございます。また、後々データベースの形で活用できるという可能性も残るかと思えます。まずは、実施の目的ですね、今申し上げましたように、特定の分野の中から深く御意見を伺うという、資料の3-1にありますように、委員の皆さんからいただきました、こういった方々への意見聴取という事ができればと思えます。もう一方で、幅広くいろんな方の御意見を聞きたいということになりますと、こちらはアンケートという形になるかと思えます。この答申を作成するにあたって、どちらがいいのかということをもまずこの場で御審議いただきまして、実施の目的とそれに合った方法というものを確定していきたいというふうに思っております。事務局の方の説明では2月3月ということになっておりますけれども、おそらく両

方やるのは難しいだろうというふうに思っております。どちらかを選択する形だろうというふうに思っております。まず委員の皆様方の御意見、どういった形でこの会議の意見をこの答申に取り込んでいくかというところにつきまして、御意見をいただければというふうに思います。

#### ○A委員

おそらく外部の意見確認っていうのは、この審議会が一番最初に始まったときに、私が若い人に意見を聞かないんですかっていうようなことを言ったのが始まりで、こんな大きなことになってすみません。まず御協力いただきありがとうございます。それで、言い出しっぺとしてどうしたらいいかなということを経験していろいろ考えたんですけども、一番このことで私が問題だと思っているのは、若い人の意見が確認されないままに、総合計画の見直しがされてることだなと思ったんですね。今回若い人というのは、私 30 歳で、年齢で言うと若いんですけど、どうやって市長だとか議会だとか、そういう立場でいろいろな方々と接する立場にいるので、いわゆる「若い人」とはたぶん違って、多くの方が生きるような人生を歩まれている中で得た経験や知識を、審議会での意見聴取に反映していただきたいという意味で私はやっぱりそういう人たちの意見があった方がいいんじゃないかなと思ったんですけども、意外と多くの方に御賛同いただいたので、そこまでいってるのかなと思っています。なので一番の目的は何かと言われれば、総合計画の中間見直しに少しでも若者の意見を反映させる、考えを反映させるということが一番大事かなと。その上で、時間的な問題だとか、物理的な問題、お金の問題を考えると、無作為アンケートを配布するというのが本来が一番理想なんだろうけれども、おそらく回答率もかなり低いでしょうし、例えばですけども、この子育てアンケートのような形で、何十個もの設問のアンケートが若者のところに届いても、回答率はおそらく低いでしょうし、まともな回答が得られるとはちょっと私も思えない。そうすると、何人かの方を呼んで、もしくは我々が向いて意見を聞く。その中で、取り入れられるものは取り入れるし、取り入れられないものは取り入れられないっていう形がいいのかなというふうに思っています。それと、確認の形式は団体がいいんじゃないかなというところで学生ベンチャーに打診に行かれたというのはすばらしいなと思ってるんですが、例えば青年会議所だとか、法人会、法人会青年部だとか、商工会議所青年部。そういった方々が、若者を中心としている団体なので、懇談会のテーマとしてはいいんじゃないかっていう議論が過去にもありましたので、そういう視点でいうと、例えばその方々っていうのは非常に日頃から横の連携もありますし、まちづくりにも参画されてる方なので、なかなか若い人の意見を聞くんですけど、例えば新幹線新駅周辺を盛り上げるにはどうしたらいいですかって言うと、例えばディズニーランドを持って来ればいいのか、そういう突拍子もないことがあるんですよ。突拍子もないってのは大事なんですけども、その中である程度小樽の現実を踏まえた意見もないといけないので、そういったことを考えると、学生ベンチャーだとか、そういった団体に属している方が、心から小樽のことを考えられているので、非常によろしいのかなと思います。あとは聞き方なんですけれども、今日の審議会で例えばもしそこに若い人がいたとしたら、多分もう何をしゃべっていいんだろうという形で、もうポカーンとしてですね、何の意見も言えずに終わってしまうと思います。なのでそこは、例えば今回の総合計画の中でも、例えば、26 ページに、おたる子ども会議っていうのがありまして、これは過去に、中学生を対象に、おそらく意見交換をするような形で、小樽の未来についてどうしたらいいでしょうかって話を、当時聞かれたんだと思うんですけども、そんなような形で、かなり聞き方に

については工夫をしないと、若い人の、いわゆる私たちが思うような、若者の既成概念にとらわれない自由な意見というのは出てこないのかなと思っているので、その3点です。そこをしっかりと決めていただければいいのかなと。ただ、それが1月2月までに、この審議会の中で議論ができなかったということであれば、私は無理に若者から意見を聞くということをしなくても、今のこの審議会の見解というか、言葉を選ぶのが難しいですけど、実力としてそこまでできなかったということであれば次の課題、今後の市の課題としてもいいのかなというふうに思っております。以上です。

#### ○会長

はい。どうもありがとうございました。今の御意見を聞いて思いましたのは、どちらかという意見聴取の方がよろしいのかなということでした。無理しなくてもいいのかな、というところもありましたけれど。この審議会自体がですね、すでに様々な方の御参加をいただきながら行ってございますので、この審議会として責任を持って意見・答申を出すということはもちろん可能であります。外部意見というのは、そこで拾いきれない御意見を拾うという趣旨ですので、主体はこの審議会でありますので、その点も含めて、今後の外部の意見の確認の仕方について、他の委員の方からも御意見をいただきたいと思います。

#### ○B委員

今、A委員からお話があった、若い方のご意見を聴取するということに関しては私自身も非常に同感ではあるんですけども。手法の部分で私自身はちょっと別の意見も持ち合わせているということでお話をさせていただきます。まずですね、外部意見の確認をするということの目的に関してですけれども、これが総合計画の答申の中に盛り込まれているということは、広く皆さんの御意見を、この総合計画に入れていきたいと思いますというのあらわれだと思えますね。その中で、どこかの団体、何かしらの活動をされている団体からの意見聴取となってしまうと、ある意味そのまちづくりの活動の中で、今、小樽の中で課題となっていることを解決するとか、そういう取り組みをすでにされている団体の方が意見聴取の対象になるということになってしまうと、すでに何かしらの表現といえますか、そういったものをしていて、多少そこにバイアスがかかってしまうんじゃないかなという懸念はあるんですね。他方で、アンケート調査で抽出、これは時間的な制約もありますし、費用面もかかると思いますので、これが現実的かどうかは別としてですが、アンケートでお答えをいただけるのであれば、その分本当に普段声を上げていないといった、そういった方の御意見をいただける、そういうことが必要んじゃないかなというふうに思います。加えて、回答率が低くなってしまうんじゃないかという、A委員のおっしゃっていたことは私も全く同感なんです。ただ、回答しないということも含めて、一つの選択肢なんじゃないかなというふうに思っていて、小樽のこの将来のことを決めていく総合計画なんです、御意見をください、って言ったときに、いやいやそれは私は答えませんということも、一つの選択というか、意思を示しているということ受けておめるというのも、ある意味必要んじゃないかなというふうに思った次第です。ですので、私としては、まとめると、無作為抽出での若い方に向けたアンケート調査をしていく。母数をどのぐらい取ればいいのかっていうのは統計の話になってきますから、ちょっと専門的な話ですけども、やるべきとしては、アンケートなんじゃないかなというふうに考えた次第です。

○会長

ありがとうございました。アンケートの場合は幅広くですね、様々な方の御意見を広く聞くメリットがあると思います。ちょっと事務局に確認したいんですが、我々の行う調査などで郵送して行うもので、最近返って来るのは10%くらい、昔は30%くらいですけども、逆に道庁ですとかそういう役所が出したものに対しては割と回答率が高いというふうに聞いているんですが、小樽市でもし何かこれまでにアンケートをやったときの回答率がどれくらいあったかっていう、そういった数字はお持ちでしょうか。

○事務局（企画政策室主幹）

総合計画に関してもアンケートを定期的に2年に1度、来年御審議いただく基本計画の中のそれぞれの施策の指標なんですけれども、施策指標に関するアンケートというのを行ってまして、そちらのほうでいきますと40%前後ぐらいです。過去3回行っている中ではその程度の回答率ですね。当然、全部の年齢層で40%前後なので、若者に絞るとなると、さらにもうちょっと低くなるかなと思います。その場合でも20%から30%くらいにはなるのでしょうか。若い方であれば、それぐらいの回収率という見込みで一応考えております。

○会長

ありがとうございます。アンケートは郵送でされているんですか。

○事務局（企画政策室主幹）

アンケートの手法について改めて御説明申し上げますと、無作為抽出を行うという前提です。市役所で行う場合は、住民基本台帳という、言ってみればデータベースになるものがございますので、住民基本台帳の方から本当に無作為で抽出するという、人の手を介すのではなくて、機械によって無作為抽出するという手法を使って行っています。そちらの方法で住民基本台帳を基に個人の名前とその住所というのをもとに、そちらの住所に郵送するというやり方です。回答の方法につきましては、今申し上げたように、送るときは郵送で送るんですけれども、その文書の中にですね、QRコードを入れて、若者対象ということであれば、皆さんスマホをお持ちだと思いますので、スマホを使って、簡単に御回答いただけるような形で、もしアンケート調査の方をやるということであれば、そういう形で進めたいと考えているところです。

○会長

ありがとうございます。アンケートもなかなか難しい部分もあると思いますね。

○C委員

私の方からアンケートの関係でちょっと確認したいんですが、子ども・子育て支援アンケートの話がありましたが、このデータっていうのは、この総合計画審議会の中でも使える、という形でもらえるんですか。よくあるのは、これに使えます、という縛りがあったりするかと。

○事務局（企画政策室主幹）

こちらの子ども・子育て支援アンケートが12月に行って、おそらく年度末から年度明けぐらいに取りまとめて公表をする予定、ということでございまして、公表資料については完全に一般に公表されるものですので、その公表された内容を皆様にお示しさせていただくと。当然それをどなたでも使えるように公表するという形になる。そちらの方をお使いいただく、参考にしていただくということについて特に問題はないかと考えています。

○C委員

データとして、例えばクロス集計をかけたのだとか、そういったような形では使えなくて、普通に公表されたものをただ見るっていうだけの形ですか。

○事務局（企画政策室主幹）

そうですね。その審議会用に生のデータをもらって、そこから特定の抽出の仕方をするというイメージではありませんので、あくまでその一般的な公表のレベルのものを資料として皆様にお配りするというイメージでした。

○C委員

わかりました、ありがとうございます。まず、アンケート調査の部分に関しては、やはりそういった結果を自由にクロス集計、例えばこういう傾向がある人がこういうふうに思っているとか、そうやって使えるのがメリットなのかなと思ったので。参考としてこういったものがあって使えるんだったら、あれかなとも思いましたけれど。そもそもやはりアンケートっていろんな部署でいろんな事業だとか施策の中でとってるものがあるので、改めて、この総合計画の見直しの中で取らなきゃならないかどうかというのは、他の部分も使えればある程度いいのかな、と。それよりも、やはり審議会での意見聴取をして、いろんなアンケートでは書きづらいような内容のものも聞けるっていうのはないのかな、と。あと誰にするかっていうのはまた別の問題だとは思いますが。この審議会の中で総合計画の見直しっていう部分に関しては、かなり広い内容になっているので、直接お話を聞くっていうやり方のほうがいいんじゃないかなと、私は思いました。

○会長

ありがとうございます。意見聴取の方がいいのではないかという御意見でした。

○D委員

まず最初に質問したいんですが、この意見聴取とアンケートの調査っていうのは、前にもお聞きしましたが、どうしても両方はできないっていうことなんですか。

○事務局（企画政策室主幹）

事務量の関係もありまして、年度内に取りまとめた結果を、来年度皆様に御審議いただく前に、資

料としてお示しする必要があるだろうというふうに考えたときに、時間的な制約を考えて、どちらか一方に絞っていただきたいなというふうに考えています。

#### ○D委員

この外部意見の意向調査っていう形で、これをやろうとなされているわけですが、もちろんここには商大の学長もいらっしゃるし、皆さんマーケティングの専門の方もいらっしゃるのとおり、この専門家の意見を聞くっていうことと、アンケートをするっていうことは全く別の目的ですよ。このアンケートを聞くにしても、約20ぐらいの項目があって、半分以上、13以上の項目は、この都市で、住民が今後、流入人口も含めて、この都市で生活していけるんですか、っていうかなり危機感があると思うんですよ。この危機感に対して、いわゆるこの危機感で、都市としての生業（なりわい）、この生業をこのまま小樽市は維持していけるんですか、と。ですから僕たちの子育てや何かは、小樽市から出て行かざるをえないですよ。仕事が無いんですよとか、小樽商大のアンケートでも前にありましたが、学生たちが札幌に住んで、小樽商大に通ってることにしても、多くの意見は、小樽市の中にアルバイトがないんですよという話もありながら、この市の生業をどうしていくのかっていうこの根本的なところの不安がものすごく、この住民の子育てにしても、みんなあると思うんですよ。この住民アンケートっていう部分は、住民の意識と、何を不安に思ってるのか、何をこの都市の利点として考えているのかっていう。住民意識と生活意識を探るための目的ですよ。そして、この専門家に、意見聴取や何かをしていくっていうのは、専門家も含めて、実際に何かの考えがある人たちを呼んで、その人たちがどう考えてるのかっていう方向性を教えていただいたり、知恵を借りて、研究してる人たちから、分析してる人たちから、その知恵や方向性を見つけようっていうことですよ。二つの全く違うことを、僕は両方やるべきだと思いますが。これはどうしても無理なことなんじゃないでしょうか。行政の方にお聞きしたいんですが。先ほども言った、例えば上のほうにある、一番下にある伝統的建造物の活用のため、不動産と活用者のマッチングシステムの先進自治体の担当者から意見を聞くっていう話にしても、行政間でやり取りができるんで、これは行政間でもできますよねって言うてましたら、こんなに遅くはならないはずですよ。もっと前から、この小樽市の中で、花園のお店もなくなり、商店街のお店もなくなり、魅力的なレストランや何かもなくなっていつている。これは飯が食えないからですよ。コロナもあり。その中で、そういう小樽の歴史的建造物や何かを含めて、観光の目玉になっていくような人を呼び寄せていくところが、ものすごい小樽市の中で減少してきているのに、このまま放っておくっていうことをずっとやってきているのに、行政間でやりとりで情報取りますから大丈夫ですよって言われても、これも進まないまま情報だけ取って終わるんじゃないかっていう危機感があるんですが。いかがなものなんでしょうか。

#### ○事務局（企画政策室主幹）

まず先に、最後にお話しあった、行政間のやり取りでというお話いただいたところですが、私の説明がちょっと言葉足らずだったかもしれません。あくまで自治体間で情報をやり取りして、その外部意見聴取とは別の形で、審議会で今後御審議いただくための参考として、皆様に先進自治体のどのような取り組みをなされているかというのを知っていただくために、やる場合には、わざわざ金沢市からこちらに担当者に来ていただかなくても、皆様がお聞きになりたい内容について、あらかじめこち

らの方にいただければ、その内容をもって金沢市の担当者の方とですね、事務方同士でやり取りをして、その結果を皆様にお伝えして、そこで審議会での検討にあたっての参考としていただく、という手法がとれるのではないか、という意味合いで、先ほど申し上げました。

○D委員

それはわかりました。はい。

○事務局（企画政策室主幹）

あと、アンケートと外部意見聴取を両方ともということで御意見をいただいているところですが、繰り返しになってしまいますけど、もし年度内に終わらせるということを前提で考えた場合ですね。

○D委員

やり方の問題じゃなくて、この調査を、外部意見を聞くっていうものを、住民の意識調査にするのか、この都市の生業を考え、知恵を借りる形の意見聴取をやるのか。どっちかの方向性だっていうことですね。このアンケートか、意見聴取かということじゃなくて、全く違うものなんで。住民の意思調査をするのか、この都市の方向性を考えるために、この基本構想や何かをやっていくために、研究者たちの意見を聞くのか。ていう話の2者選択ってことですね。

○事務局（企画政策室長）

今の御意見なんですけれども、その外部の意見、おっしゃる通りですね、外部の専門家の意見を聞くっていう考え方と、一般的な皆さんの御意見を聞くという考え方があるかと思うんですけれども、まず、この審議会の中では、出だしといいますか、御意見の中ではまず皆さん若い方の意見を、どういうふうに考えてるんだという意見を聞こうというところからのスタートだったものですから、まず、広く意見を聞きたいというところが、前提なのかなというふうに考えておりました。ですからそういう意味でももちろん専門家の意見を聞くということも大事なんですけれども、例えばある特定のジャンルの専門的な意見ももちろん大事ですけれども、総合計画という大きなくくりの中でやるべきかその下の計画の中でやるべきだとかという議論もありますし、先ほど言ったように、若い方の意見を広く取り入れたいという、大前提の中での議論で今まで進んできたものですから、今言ったような形で、まず広くという意味合いの中での選択を示しているところでございます。

○D委員

多分、先ほどA委員がおっしゃったように、若い方の意見、本音も含めた部分で、この都市に関する不安や肯定感やなんかを含めて、ちゃんと聞き出すっていうのは非常に難しいアンケートだと思いますが。その辺はどういうふうに、本当に小樽商大の皆さんの研究者たちの知恵を借りて、本当にアンケート内容を精査して、アンケートの質問項目も精査しなきゃなんないけども、多分、今の若い人たちは3者選択とか4者選択の中でしかなかなか意見を出してこないんで、この回答の項目をどう作るかっていうことも非常に難しい問題になると思いますが。会長どうでしょうか。



### ○会長

私は統計の専門家ではないんですけども、アンケート調査等はしたことがあります。実際のアンケートを作るというのは、これは非常に難しい作業でありまして、我々実際何やってるかっていうとアンケートを取る前にヒアリングをやって、まず大体のところ、おおよそのところを抽出した上で、さらにそれを精査する目的で、一定数以上の数を揃えなきゃいけない、そこは統計学的な数字でありますので割愛いたしますけども、その数を揃えるというものもかなり大変だというのがございます。通常、自治体が行うアンケートっていうのは、イエスノーぐらいの話が多くなってくると思いますけれども、我々のやるアンケートは選択肢を最低限5段階、多い場合は7段階に分けて、回答していただいています。その微妙な違いも含めて全て統計学的に処理をした上で、これを出してきて、統計的に意味があるかどうかというところまで判断して、これはもう情報加工というレベルですので、政策に反映するかどうかというところまではいきませんけれども、実際本来、本気でやるとそこまでいきます。それから今回のアンケートというのはですね、イエスノーぐらいで幅広く聞く、いわゆる結果を棒グラフや円グラフで出すといった、そういったレベルのものであればそれは可能だと思いますけれども。さらに突っ込んだものになりますとこれは一年二年かけてやらないとできないものだと、私は個人的には思っています。

### ○E委員

前回の分科会に行ったときに、帰りがけに、若い人の意見を聞きたいんだということで話を伺いましたので、それは賛成ですよというふうに答えて帰ったんです。今日のお話を伺っていると、この総合計画の冊子の最初の方に、数年前にかなり詳しくアンケート調査した結果が出てますよね。これはこれですばらしいと思うし、そのあとどういう経過、5年ごとにやってるのかどうかわかりませんが、こういうような方法で、まずはいいんじゃないかと。方法論の前に、20代、10代とする若い人たちの意見を聞きたいんだというところからスタートしてると思うんで、それを何とか実現したいなと思っております。私の希望としては。先ほど小樽で若者・20代って言ったらすぐ、小樽商大の学生を思い浮かべるようですけども、10代の中で小樽商大生はわずかの人数しかいないわけで、実際はもう働いてる人たちがたくさんいて、あるいは、私もそうでしたけど、小樽から出て大学に行っている人間が多いと思うんですけども、だから小樽商科大学がどうのこうのっていうことじゃなくて、20代のいろんな分野の若い人たちに率直に意見を聞くという単純な発想でいいんじゃないかなと思います。以上です。

### ○会長

ありがとうございました。御意見としては、若い方にアンケートをして聞くのがいいということでした。他にいかがでしょうか。

### ○F委員

この外部意見を聞くということについて、今年度は基本構想を改訂しようということで、基本構想がある程度まとまって、2月3月に来年度の基本計画、いわゆる具体的な計画を推進するというよう

な部分の参考に、基本構想を踏まえて、具体的な基本計画の議論に行くために、外部から意見を聞くという感じで私は取ってたんですね。ですから、その具体的な部分につきましては、アンケートをするよりは、若者なり各種各層の人たちの意見を具体化するために、どうするんですかっていうようなヒアリングをしたほうがより効果的かなと思って。二つともできるならやればいいでしょうけども、具体的にとなると意見聴取の方がいいかなと思って。ただ意見聴取の対象者も5名くらいということですから、各層に分かれた部分での聴取の対応を、先ほど事務局から説明ありましたように、あるところの団体から推薦していただいて、選別していただくとか。先ほどもお話がありましたように、こういうところに来てポンとお話しなさいと言ってもなかなかこう話ができないんで。意見聴取の仕方なんかもね、基本構想と基本計画の改訂のために、今、皆さんの意見を聞いてますよという部分をきちんと踏まえて意見を聴取する体制がとれればかなと思っておりますので。なかなかその選定する、選別するっていうのは大変みたいですけれども、先ほど言われましたように、青年会議所なり各種団体なり或いは創業者の支援団体なんかもあるように伺ってますので、そのあたり選別して意見聴取ができればかなと思っておりますので。その時期的な部分と、来年度に向けての部分は、もう1回整理していただければと思います。

○会長

御意見ありがとうございました。他にいかがでしょうか。

○G委員

二つの調査ということで、アンケート調査、これは時間の関係もあると。それと項目をどうするかという話もあるんですけれども、やっぱり直感的に難しいのではないかなと思っているんです。私のゼミ生もいろいろ調査ってやりやすいのでやっているんですが、相当その内容というか項目をちゃんと考えないと。イエスかノーかという世界であれば、当たり前なことしか出てこないですよ。そのような当たり前のことを、この総合計画に反映するような内容にはとてもならないんじゃないかな、ということを考えてるんですね。ここに書かれてる内容を見ても、小樽にはどのような産業があるのか、そんなことを20代の人に聞いたって、さらに具体的に返ってくるなんてことはまずあり得ない、と思ってるんですね。なので、個人意見としてはアンケート調査は、時間の関係それからその性格の関係からも、審議会に反映させる効率性からも大きな限界があるのではないかなと思います。意見聴取の方がより現実的ではないかなと思います。以上です。

○会長

ありがとうございます。

○H委員

20代の方へのアンケート調査というところでは、やはり意見は聞いていった方がいいかなと私は思いまして、例えば、うちは手稲に大学があるんですけれども、古くから二十数年、工学部の先生たちが地域に入って行って、幼稚園、小中学校、そういったところで、手稲の夏あかりという提灯を作る活動をしていまして、そうしたことをずっと続けていることによって、うちの公衆衛生の看護学生

もそうなんですけれど、やっぱり手稲に住みたい、っておっしゃるんですよね。自分も子どもの時そうやって提灯を作ってきた、場合によっては、自分が今度は教える側になりたいと言って大学に来る学生さんもいて、そうやって自分が子育てをするっていうことを考えたらやっぱり手稲しかないっておっしゃるんですよね。ですから手稲区って地域にずっと親御さんがいて、そのスーパの冷めない近い距離、場合によったら2世帯住宅、そういうような形で、手稲から出ないという傾向が結構あったりします。地域の文化・お祭り、そういったものがあるから、やはりそれが続いてきてるんじゃないかなってというのは、工学部の先生の話聞いていて思います。そうした中で、私は小樽がどれくらい、潮まつりですか、何かそういうお祭りとかもありますけど、そういったものを踏まえて若者たちが自分たちが主体になってやっていくんだとか、何かそういう気合があるのかどうか、そういうようなところを含めて、文化を伝えていくとか、いろいろ教育の現場でも、海外と交流したりとかいろいろなことをやってるんだらうなって思うんです。でもそれが例えば自分も小樽で先々、やっぱり小樽でしか住めないなっていうふうになっていくのかどうか、そういうような気持ちになるように、こういう施策って考えていかなきゃいけないんじゃないかな、って思うんですけれど。まあそれはそれなんですけど、アンケートについても、質問の内容とかは、やはりこれはちょっと本当に答えにくい、難しいなと思うんですよね。今言ったように、小樽っていうのが若者にとってどのくらい、小樽に愛着があるのかとか、小樽で住みたいと思うのかとか、仕事が小樽で考えられるのかとか、何かもうちょっと若者に聞きやすいというか、若者の意識とか、こういう小樽の計画に反映するような内容をもうちょっと検討して、具体的にやはりアンケートはアンケートでやったほうがいいのではないかなというふうに私は思います。何かこう若者の意見というか考えが全く反映されていないなっていう気がするんで、そこはニーズが少なくても、どれくらい小樽について、生活していきたいのか。うちの大学なんかは結構やっぱり小樽から来てる学生が多いんですよね。そうすると、なんやかんや言ってもやっぱり小樽が好きで小樽から離れたくないっていう学生も結構います。なので本当にどうなんだろうと感じている部分もあるので、是非とも何かそこら辺は内容をもう少し検討して、やれたらいいんじゃないかなと思います。あともう一つ、審議会での意見聴取のところなんですけど、先ほどから他の委員の先生方からも出ていると思うんですが、他の都市計画や観光開発を専門にやっている方とか、先駆的な事業をやっているところに聞くとかっていうのか。それは具体的な基本計画に反映するというのであれば、それはそれで、例えば分科会ごとに、小グループでお聞きするっていう方法も一つありなのかなと思ってお聞きしていたんですが、その住民のアンケートとか意見を聞くっていう内容と、実際に先駆的にやっていることとか、そういった基本的な、今後の計画に反映させるものと、分けて考えていったほうがいいのではないかなと思いました。

#### ○会長

はい、ありがとうございました。あとはいかがでしょう。時間の関係もありますので、そろそろ集約させていきたいというふうに思うのですが。

#### ○I委員

今、アンケートとか、どこに反映されるかって考えたときに、先ほどF委員もおっしゃってましたように、基本構想は3月までに議会の中で、というところで、このアンケートなりが反映されるのは

次の基本計画の策定というところの段階になるという話でしたので、それを考えたときに今の基本計画のつくりを見ると、何か指標ということで基準があって目標が書かれています。その目標に対して今実態がどうなのかっていうのはきっと小樽市さんではある程度押さえたりしていると思うんですけど、ただその目標というのは、次の目標のときに、それを上げていくのか下げていくのか方向性をですね、明確にしてもらうようなアンケートをとってもらくと、その次の基本計画の策定のときに、建設的な審議ができるんじゃないのかなというふうに思います。

#### ○会長

ありがとうございました。事務局に聞きたいんですが、このアンケートをとる場合ですと、若者向けという形で、どこまで定義するかって話もあるんでしょうけども、仮に小樽市の10代20代という年齢層でとるとした場合に、実際問題そんなに数は多くないと思うんですね。その年齢の人口がどの程度になるかということと、先ほどお話しいただいた回収率、回答率です。これは低いと言った場合に、さらに抽出して選んでいくという、そういったことをした場合、そのうちどれだけ本当に若者の意見として回収できるのかっていうんですね。おおよそのところで構わないんですが、人口とそれから回収率から考えて、まず人口がどれだけあって、そこからどれだけ抽出をして、そして回収率がどれだけあるかと考えた場合に、実際問題、回答される数というのはどの程度のものなのか。これはもし非常に小さい数字であれば、果たして全体像を示しているのかということの方が少し危うくなっていくというところがあると思うんですが、その辺どうですか。非常に大まかなところで結構なんですけれど。

#### ○事務局（企画政策室主幹）

年齢層の区分の仕方を、どれだけ幅をとるかにも当然左右されるんですが、母数として数千人から1万数千人、それくらいの規模にはなるのかなというイメージはしています。例えば10%、20%の回収率だった場合に、どれだけ回収されるかを考えて、数百名規模の回答を担保したいのであれば、2,000人ぐらいの規模はこちらからお送りしないといけないのかなというイメージはしているところです。その2,000人に送るとなっても、母数自体はもっといるはずですので、数百名規模の回答をもらうこと自体は可能なのかと。ただ、統計的に有意かどうかっていうところになるとそこまでの精査をしているものではないものですから。例えばその200人、300人という回答が返ってきたときに母数がどれぐらいなのかということにもよるので、統計的に有意といえるところまで結果としていけるかどうかは、今の段階ではわからないっていうのが正直なところです。

#### ○会長

先ほどちょっと御意見が出てましたが、過去にもアンケートを取られてますよね。

#### ○事務局（企画政策室主幹）

冊子の22ページですとかそのあたりに出ているアンケート調査、これは計画を策定するに際して、基礎的な部分を検討するために、市民の方だけではなく、観光客ですとか、市内の各種組織に、アンケートで複数の項目を聞いていて、実際どのように使われているかと申しますと、そういったアンケ

ートを行った結果として、今後のまちづくりの課題として、どのようなことが考えられるかを検討する際の参考とさせていただいておまして、それが基本構想の体系図として、皆様に前にお配りした資料でお示した、まちづくりの6つのテーマですとか、そういった本当に総合計画の基礎的な作りを考えるにあたって、このアンケート調査の結果を参考とさせていただいているという使い方になります。逆に言うと、基本計画にあるような細かい取り組みとか、そういったところの参考とするのを趣旨としたものではないです。アンケート調査としては、その他に2年に1回行ってるのがありまして、総合計画の冊子がお手元にございましたら、75ページをお開きいただければと思うんですけども、一つ一つの施策に必ず市民アンケート指標という、施策全体に関する事として市民の満足度等を調査する指標を設けておまして、32施策ありますので32と、プラス幾つかを一緒に行っているアンケートがありますけども、それらを2年に1回、伸びているかどうかというところを確認しているところです。これを行政評価という形で、実際に施策がうまく進んでいるかどうかについて判断していく上でも参考としているところです。こちらの2年に1回行っているものにつきましては、18歳以上の市民全体、全部の年齢層を対象に2000件、毎回送付して、先ほど申しました40%前後の回収となっております。

#### ○E委員

私が最初にお話しした最初のアンケートの結果なんですが、これはあくまでも統計学的なことを目的としたアンケートだと思うんですね。私はこの間分科会の後で、20代の若い人を対象にアンケートしたいと聞かれた趣旨で賛同したのは、先ほど最初にA委員がおっしゃったように、突拍子もない発想だとか意見だとか提案だとか、そういうものを期待して行うアンケートだと私は理解したんですよ。ある程度統計学的なアンケートをしようとする、先ほどから皆さん議論しているように、非常に難しいよとか時間がかかるよ、お金かかるよ、間に合わないよということになると思うんですけども、そういうその統計学的なことを目的としたアンケートではないという意味で、私は賛成しました。だから、A委員もおっしゃるような方向でやっていけたらいいなと思っています。

#### ○J委員

最初にA委員が、一番最初に皆さんが集まった場で、若い方がいないのかというふうに尋ねられたのが発端だったかと記憶しているんですけども、ちょっと時間もなかなか若い方が合わせるのが難しい、学校があつたりお仕事があつたりということで難しいということで、もしいるんだつたらここに若い方が委員でいらついたら一番よかったんじゃないかなと思うんですけど、いらつからないので、どういう形で、若い方をこの審議会の中に取り入れたらいいということが始まりだったんじゃないかと記憶してるんですけども、今おっしゃってらしたように、統計学で使える数字じゃなくても意見としてこの審議会に持ってこれるような形でできるのが、私も最初賛同したところだったので、アンケートで一定数その意見を集約していただいて、私たちのところに共有していただくなり、そういう形で取り入れるなりできればいいんじゃないかというふうに私もちょっと思っているんですけど、アンケートという形で、何らかの若い方の意見をここで聞いて取り入れることができれば、いいんじゃないかと思います。

## ○会長

ありがとうございます。御意見が分かれてきたところで、かなり多様な御意見が出ました。具体的にはまだ決まっていませんが、まとめなければいけないという作業がございますので。委員に若い人がいないので、若い人の意見を入れましょうというところが最初にあって、その場合はアンケートも一つのやり方で、こういった場所でなかなか発言できない方も意見を出すことができる。ただ一方で、どれだけ回収できるか分からないといった問題点が出てくる。ある程度数が集まらないと、全体の意見とは成り得ないだろうというところは出てくると思います。もう一方で、意見聴取という形をとりますと、既に活動されている方がどう考えているかということより具体的な話として聞くことができる。それぞれ利点はあると思っておりますし、また、できれば両方やった方がいいのではないかと、それもよく分かります。ただ、考え方なんですけれども、どちらをやるかと選択する場合、アンケートをやる場合に、一つは、どのレベルでのアンケートなのかという話になると思います。先ほど説明しましたけれども、本格的なアンケート、これは無理だと思います。非常に単純なアンケートをした場合、ざっくりした意見は出てくるんでしょうけれど、あまりつつこんだ話まで出てくるのかどうかという危険性がございます。意見聴取をした場合、これはある程度ピンポイントになってしまうというところはありますけれども、選び方によっては、ある分野ですでに活動されている方ですとか、その方は恐らく御本人の活動のみならず、その他のことをご存知だと思います。そういった方から意見を聞くということは、ある意味アンケートで我々が取りこぼしそうな、項目に入れることを忘れてしまいそうなところまで拾える可能性があるかと、そういったメリットがございます。計画を作っていくといった作業の中で、どちらがより重要であるか、かつ効果的であるかという話になってくるかなと思っております。

我々、それぞれ審議会の委員という形で様々な立場を代表しつつ、かつ、我々が知っている様々なことも併せて、この審議会の中で検討して出させていただいているというふうに思っております。その上で若い方いらっしゃいませんけども、若い方の声を、H委員の学生の方のお話もありますし、私の方でも学生の話聞いておりますので、若い方のお話を全く知らないわけではないと思っております。具体的な計画の中に落とし込むといったときに、私がある程度想定していますのは、やはり具体的なものを入れたほうが良いのではないかと。説得力といいますか、我々こう考えてます、じゃあ実際どうすればいいのかっていうその具体策を、どこまで盛り込めるかということではないかというふうに思っております。そうしますと、D委員のおっしゃったように、アンケートと意見聴取の両方ができればそれに越したことはないというふうに私は思っておりますけども、時間的なことですか、それから内容の深みというところ、そこを考えると、この時間の中でどちらがベターかというところ、今日の御意見も聞く中で、計画を作っていくところに入れる意見の具体性、それから重要性というところを鑑みますと、意見聴取という形の方がベターなのかなと、今日の御意見も聞きながら思っているところでもあります。正直どちらにするのかというのは、どちらもそれぞれの利点がありますので、落とし所が難しいと当初から思っておりましたけれども、今日のお話を聞いて、アンケートと意見聴取でほぼ同数ぐらいの御意見をいただいておりますので、多数決をとってもあまり意味がないかと思っておりますが、最終的には我々の仕事といいますと、総合計画を今後より充実したものにしていこうかと思っておりますので、その観点から今日の皆様の御意見をいただいている中で感じましたのは、それであれば意見聴取がベターかなというところで、私自身感じたところでありまして、可

能であれば、意見聴取という方向で進めさせていただければと思うんですけども、いかがでしょうか。

(異議なしの声)

ありがとうございます。ただ意見聴取といいますと、誰に聞くですとか、どういったことを聞くかというところは少し御議論いただきたいと思っております、お手元の資料3-1の方を御確認いただければと思います。最初に事務局の方から候補として具体的な企業名が出ておりましたけれども、ただ一方で、個人情報の問題がありますので、無作為に我々が選ぶですとか、そういう出来ないこともございます。そうしますと、すでに同意を得ているような市内の企業の方というのが候補として入ってくるのかなというふうに思っております。その企業の方というのは言い換えますと、市外から転入して、若手の企業家で、大学生と付き合っている人ということになってしまいますので、ある意味お一人で終わってしまう。もしくはその方のお知り合いで、あと1人2人ということもあるかと思えます。あと、市外から転入した子育て世代の方ですとか、アクティブシニアの方とありますが、具体的に誰に聞けばいいのかというのは非常に難しく、市役所の方で選ぶわけにもいかないだろうと思えます。言い換えますと、もし審議会の委員の方の中で、こういった方がいらっしゃいますという御推薦をいただければ、そういった方へコンタクトを取るといことは、それは可能かと思えます。ただ、今ここですぐに推薦してくれと言われて出てくるものでもないかと思えます。また、都市計画ですとかそういったところの学識経験者ですとか、そういった方のお名前が挙がっておりますけれども、ここでまず確認したいことは、一つは若者を中心として意見聴取をするという点は皆様方の御意見として大勢が占めていたと思えますがそれはよろしいでしょうか。そうしますと最初事務局の方からありましたすでに推薦されている方もいらっしゃるということで、その方が一つ候補になると思えます。それにさらに、御推薦等いただければ、また、増やしていくことができるかと思えます。また、先程の御推薦をいただかなければいけなさそうなところもやっぱり残りますので、こちらにつきましては、繰り返しになりますけれども、この場でこの方というのも皆さんもなかなかすぐには思い浮かばない部分もあると思えますし、協力していただけるかどうかということの確認等も、もしかすると必要かもしれませんので、この場ではなくて例えば1週間ですとか、一定の時間の中で、この方という方がいらっしゃった場合、事務局の方に御連絡をいただくという形で御推薦いただければですね、我々としてもそのあとの作業がやりやすくなるかなというふうに思っております。あとは、先程の自治体関係者という話のところは、これは恐らく、自治体同士の話聞けるでしょうし、意見聴取というのは基本的には、我々が様々な観点から御意見をいただくという形で、来ていただいて質問する形になりますけれども、もちろんそれのみならず色々な観点で、小樽市なりに様々な情報をお持ちでしょうし、また新たな情報を入手することも可能かと思えますので、そういったことも含めて、さらに次の段階の計画を作るところに落とし込める情報を追加していきたいというふうに思っております。そうなりますと、すでに上がっていた候補の方はいいとして、それ以外の方については、まず1週間ぐらいでよろしいでしょうか、皆様方からの、この方という心当たりがあればですね、ご推薦をいただくという形をまず想定したいと思います。事務局の方はそれで大丈夫ですか。

○事務局（企画政策室主幹）

はい。では改めて、近日中に皆様に照会させていただきまして、ある程度の期間をとって、御推薦

いただける方がいらっしゃれば、できれば具体的団体名でいただければと思います。それをもとに、改めて事務局で相手の方に打診しまして、可能であれば来ていただくという方法で。もしあまりにも数が多くなった場合は、そこは会長様と事務局との間で御相談させていただいて。

○会長

まずは出していただいた上で、内容的にも分野的にも重複する方もいらっしゃるかもしれませんので、その場合は、事務局と私の方で、絞り込みということをさせていただければというふうに思います。審議会の中でお話をいただくということになりますと、数は当然限られてまいりますので、恐らく3名から多くて5名の方しか御協力いただけないと思いますので、もしそれ以上の人数が候補として挙げた場合は、私と事務局で、分野を見た上で決めさせていただければと思いますので、その辺は御一任いただければと思いますがいかがでしょうか。よろしいですか。

○E委員

これは、この（資料3-1の）8項目に対して、事務局に上げるということですね。

○会長

まずは8項目でよろしいですか。

○事務局（企画政策室主幹）

今、この8項目を、いただいている御意向ということで書かせていただいておりますけれども、もしこれ以外の方、ここの枠に該当しないという方でも、御推薦のお考えがあれば。

○会長

もう少し幅広くても構わないという。

○事務局（企画政策室主幹）

当然ながらバラバラであればあるほど、日程調整の関係上、問題が出てくるかなというのはありますので、先程事務局で御推薦させていただいた学生ベンチャーの方に、まず調整をさせていただいて、日程をある程度絞り込みした上で、候補の方に打診する際に、その時期に参加していただけるかどうかというのでも聞いた上で、実際に実現可能かどうかの判断をさせていただければと思います。

○会長

今の御質問は、分野として意見聴取で8項目挙がってますけれども、これ以外でも構いませんかということですが。

○事務局（企画政策室主幹）

はい。



○会長

それは構わないということですね。

○事務局（企画政策室長）

補足ですけれど、この8項目でなくても構わないんですが、先ほどの議論のとおり若い方の意見を広く聞きたいという趣旨になりますので、その範囲の中で、ここにとらわれずというような趣旨で選んでいただければというふうに考えております。

○K委員

若い方って何歳ぐらいまで。

○事務局（企画政策室主幹）

20代はOKで30代なら駄目ですとか、そういうものでもないんですけども、委員の皆さんのことと言いますと、20代30代の方が非常に少ないというのは現状ございますので、その辺を考慮しながら、御推薦いただければなというふうには思います。

○H委員

一点確認なんですけれども、ヒアリングをするということなんです、方法としてはここに来ていただいて行うということですか。

○事務局（企画政策室主幹）

はい。基本的には市役所内に会場を設けて、審議会を開催するときに来ていただくという形にはなろうかと思います。

○H委員

どなたがヒアリングするのでしょうか。

○事務局

意見聴取する主体は、あくまで審議会の委員の皆様が主体となって意見聴取するというふうに考えておりますので。

○A委員

超圧迫面接みたいになる。

○H委員

例えば分科会とかの中で何名かですとか、具体的なところが分からないと、対象の方を選定するにしても難しいなど。

### ○事務局（企画政策室主幹）

今おっしゃられているのは、各分科会の中から代表者の方を出すとかそういう意味合いでしょうか。

### ○H委員

何名かでもいいですし、8名程度だったと思うので、その中で出席できる方が参加して、何人かとお話を聞くっていうイメージかなって思ったりはしたんですけど、その辺共有しておいたほうがいいかと。

### ○会長

色んな審議会なんかで意見を聞く場合、こんなにたくさん委員がいらっしゃる場合もあまりないので、普通はもうちょっと数が少ない中で、お話する方も結構慣れた方が多いということありますが、もし若い方がいらっしゃるとなると、ちょっとやり方を工夫する必要があると思いますし、時間的なことを考えると、来ていただくべきなのか、それともZOOMか何かでやってしまうという方が彼らも慣れているかもしれないっていうのもあります。審議会として呼ぶという形になっていますので、その上で御意見をいただくということなので、先程あったように圧迫面接で学生が苦しむのではという話もありましたけど、そういったことが基本的にならないような形を考えたいと思います。それはおそらく、実際にどういった質問をこちらで用意して、ある意味いきなりここで聞かれてということではなくて、幾つかの想定される質問を事前にお送りして、それに対して御意見をいただくという形で、少なくともある程度向こうも心積もりがあるので、舞い上がることもないのかなと。

### ○L委員

私もちょっと質問です。3～5名ぐらいの方に来ていただいて、質問はその方たちに一斉に、同じお題ですか、それとも呼んだ方にこのことを聞きたいっていう感じになるのか。推薦するときに自分で考えたら、この人にはこれを聞いてみたいけれど、もしかしたらこの人には全然的外れなのかなとかって思ったんですけど。

### ○会長

ある程度、そのテーマごとに来ていただくことになると思いますし、例えば3人だからその3人がずっと座っている必要があるかというのと、1人20分だとか30分ずつやっていくというやり方もありますので、やり方は少し工夫をちょっと考えたいと思いますけれども、できる限りプレッシャーがかからない形ではしたいと思っています。

### ○D委員

ZOOMはやめたほうがいいと思います。ある一定方向性の会社の会議とか、各部署がどうやっているかっていう報告会議はすごく適切なんですけど、ZOOMは議論にならないんですよね。ですから、できればマンツーマンで来ていただいてやる形にしたいなという。

○会長

対面ということですね。

○H委員

私は看護の分野なので、患者さんだったりとか、住民の方だったりにインタビューすることが結構多いんですけども、こうした内容とかであれば数名の方のグループミーティングみたいな形をとった方が、ざっくばらんに人の意見も聞いて、ああそういえばっていうことでいろんなアイデアが出てくるのかなっていうふうに思いますので、負担も少ないのかなって、何人も委員がいる中で1人で面接してなれば圧迫になっちゃうので、グループインタビューっていう形をとった方がいいのではないかというふうに私は考えています。

○会長

ありがとうございます。グループでやるっていうのは確かに、引き出しやすいといいますか、やり方として良いと思います。ただ、何人いらっしゃるかということと、それから、全体でやるのか、それとも例えばいくつかのグループに分かれてやるのかですとか、やり方はいくつかあると思いますので、まずはどういった分野のどなたに来ていただけるかっていうところを決めた上で、さらにその実際の意見聴取のやり方ですとか、こちらについて、まずは事務局を中心に検討していただいた上で、委員の皆様方にこういった形でよろしいですかということを確認すると、そういった形で進めたいというふうに思いますが、事務局の方はそれでよろしいですか。

○事務局（企画政策室主幹）

はい。それではまず、ここまでのお話の確認としまして、この後事務局から、どのような方にどういった趣旨の意見をお聞きになりたいかというのを、皆様に改めて御意向を伺いたいと思います。その上で集まった内容を事務局で取りまとめて、一度、会長様と御相談させていただき、方向性を決めたいという形で、改めて委員の皆様へ御報告差し上げて、特に御異論がなければそういった形で進めるというようなやり方です。時間的な都合もあってあまり方向性を決めるのに時間をかけられないだろうというところもあるものですから、そのような形でさせていただければと思います。

○H委員

審議会ってというのは、各分科会という理解でよろしいでしょうか。それとも、また別途審議会という形で。

○事務局（企画政策室主幹）

全体会議という中で、意見聴取をするという予定でございました。

○H委員

私が思いましたのは、ある程度分科会に沿って今まで議論をやっていたので、聞くってなったときに、結構私の分科会なんかは若い人に意見を聞いたほうがいいのかなんて思ったんですけど

も。じゃあ審議会ということで全体でという理解で。

○事務局（企画政策室主幹）

そういった形でお願いできればと思います。あとは実際にどういう形がいいかというのも含めて会長と御相談させていただければと思います。

○会長

どうしてもこれだけの人数になりますと、委員の方々に集まっていただくだけでも日程調整が大変ですし、さらにそこに外部の方に来ていただくということになりますと、またさらに難しさが増すところがありますので、果たして全員が集まりきれるかどうかということと、御提案のような形で、もし分けてやることができれば、それも検討したいと思います。まずは事務局と私の方で調整したいと思いますので、それで御検討いただければと思います。

○A委員

日程は大体いつ頃を想定しているか。

○事務局（企画政策室主幹）

相手方とそこまで細かい話を詰めてないものです。

○A委員

こちらがやりたいと思っている、要は声を掛けるときに、何月頃にやろうと考えているんだけどという打診をするときの想定は。

○事務局（企画政策室主幹）

そうしましたら、この後取り急ぎ学生ベンチャーと1回連絡調整をして、土日がいいか平日がいいかということもあるかなと思いますので、その辺も改めて確認したうえで、こちらから御照会させていただく時に具体的な日程感を併せてお示しさせていただきたいと思います。

○A委員

市のほうで想定してる日程感はあるんですね。例えば来週とかではないですね。1月とか2月とか。

○事務局（企画政策室主幹）

2～3月に。

3 その他

○会長

本日は長時間にわたりまして、色々と御意見いただきまして誠にありがとうございました。これで終わりたいと思いますが、事務局から何か追加でございましたらお願いしたいと思います。

○事務局（企画政策室主幹）

外部意見のほうは、今お話いただいたような形とさせていただきたいと思います。

今日初めに決めていただきました基本構想に関する答申について、簡単に説明させていただきますと、来週の30日（木）に答申書を会長様より迫市長へ渡していただくという予定をしております。その後、答申でいただいた御意見の内容と、パブリックコメントでも御意見をいただいておりますけれども、そういった御意見内容を踏まえて内部で検討を行って、それぞれの御意見ごとに、基本構想で反映できるものは反映させていただき、あるいは基本構想には反映させられないけれども、基本計画の見直しで反映させていただくというものですとか、事業の推進に当たっての参考とさせていただくという形での対応をしていく形になろうかと考えております。最終的に基本構想の改定は、来年の市議会の第1回定例会で議決を経たうえで、基本構想の変更に至るという流れで考えております。あと、来年度の話になりますけれども、基本計画に関して、その前に一度2月なり3月なりに、審議会を開いて意見聴取というのを1回挟みますけれども、庁内でも基本計画の見直し作業を今後始めていって、来年度の初めぐらいにかけて行う予定でございます。現時点での見込みとしては、来年の夏ぐらいにまた改訂原案を皆様に諮問をさせていただいて、基本構想と同様に、今度は2つの分科会に分かれて具体的な中身を御審議いただくという形で予定しております。総論分科会に今年度御参加いただいた皆様につきましては、「人・暮らし・都市分科会」あるいは「産業振興・環境分科会」のいずれかに入り直していただくこととなりますので、この後、総論分科会に所属の皆様には、どちらを御希望なさるかというところを改めて照会させていただく予定でございますので、よろしくお願いたします。私からは以上でございます。

○会長

ありがとうございました。それではこれもちまして本日の審議会は終了させていただきたいと思っております。本日は長時間にわたりまして御協力ありがとうございました。